



算数・数学クリニック

文学部 教育学科

穴田 恭輔

実施日：2019年4月10日～2020年1月29日（水曜日） / 計28回

場所：神戸女子大学 須磨キャンパスM館 M315教室

参加学生数：8名

「算数・数学クリニック」では本学周辺地域で算数・数学の学習につまずいている子どもたちへ学習支援を行っています。学校では取り残されてしまうこともあるそのような子どもたちに学校での学習とは別に丁寧な指導を受けられる環境があれば、自分に合ったペースでゆっくりと学習できると考え、寺子屋のように個別に指導を行っています。来訪する子どもたちを指導するスタッフは、穴田准教授とゼミの学生たちです。また、本学の認知心理学、臨床心理学の専門家と連携協力体制をとることもあります。開設以来、参加した子どもたちの延べ人数は2300名を超えています。この活動を通して、日常生活の中で「数量・形」に係る体験をすることの必要性を感じています。

今年度の活動シーンを2つ紹介します。

ひとつめは、箱の中に同じ大きさの球がきちんと縦に3個、横に2個並べて入っているとき、箱の縦の長さが18cmなら、球の直径は何cmでしょうか。これを実際に箱とピンポン球を用いて考えてみました。それでは、この箱の横の長さは何cmでしょうか。

もうひとつは、子ども同士で作業の速さを比べる対戦をしました。対戦種目は、文字を書く速さ、文章を読む速さ、折り紙で飛行機を折る速さ、トランプを並べる速さの4つです。このとき、「時間を決めて、そのときの作業量で比べる方法」と「作業量を決めて、それにかかる時間で比べる方法」の2つを使いました。それぞれの方法でどちらが速いかを判定しました。もちろん、どちらの方法を使ってもその判定結果は同じことまで確認します。

参加した子どもたちにとって「算数・数学クリニック」は、時間がかかっても自分なりの理解をして自分のものにしていく場なのです。2019年度は計28回、主に毎週水曜日の15:00～19:30に開催し、参加した子どもたちの延べ人数は113名でした。



ピンポン球の直径は？



学習風景



速さ比べ（折り紙）